

千葉福音キリスト教会は、キリスト教プロテスタントの日本福音同盟（JEA）に加盟する日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団に属し、聖書をすべて神のことばとして信じ、罪の赦しの福音を伝え、聖霊なる神の世界に対する介入を認めて、聖霊のバプテスマと賜物、病の癒し、奇跡、再臨を信じます。

牧師
柏崎
久雄



ようこそ、千葉福音キリスト教会へ！

教会とは原典では**エクレシア**「召し出された者の集まり」という意味です。あなたが教会に来たのは偶然ではありません。神があなたに目を留められたのです。どうぞ続けて教会に集い、何でも私にたずねてください。

献金振込口座：千葉興銀稲毛支店普通 3912391「チハフクインキリストキョウカイ」

- ・どの集会でもご遠慮なくご参加ください。
- ・献金も祈りも強制されることはありません。
- ・さ細なことでも身近な教会員にお尋ねください。
- ・1階のテレビで母子が見ることもできます。
- ・なるべく定刻5分前には御着席ください。
- ・聖書・聖歌を教会内でお貸しできます。
- ・集会以外にも牧師はいつでも個人的な質問・聖書指導に応じます。御相談ください。
- ・駐車場は10台です。前から順に停めて下さい。
- ・教会員は礼拝DVDのコピー(100円)を購入することができます。

祈りの課題

- ◇ 教会員が聖霊によって成長するように。
- ◇ 新来会者、救われる者、特に青年の救い。
- ◇ 牧師夫妻の健康と働きが守られるように
- ◇ 執事・執事補の成長と強め
- ◇ 教会の成長と充実。80名礼拝の実現
- ◇ 牧師の後継者が起こるように。
- ◇ 外国人伝道の進展とグループ形成
- ◇ 新たな教会ビジョンと会堂の構築

◆ 高齢者(75歳以上)－前田富美代、寺田 拡、柏崎昭二、猪飼敦子、夏目真知子、浅野達、寺田節子、柏崎みせ

◆ 洗礼者がおこるように

◆ 事業-マリヤ・クリニック、病児保育ノア、(株)オーゼフ、岡本行政書士社労士、

◆ 健康-柏崎みせ、夏目真知子、寺田拡、浅野恵子

	9/12	9/19	9/26	10/3
受付	猪飼・恵美	恵子・濱田	瀧田・阿部	安東・余
献金	プロスパ・舞那	瀧田・Adam	恵美・門脇	井戸端・紫苑
司会	浅野 達	村上 宜憲	萩原 トシ子	高野 篤
祈り	Agnes	清水 明子	柏崎 良子	高橋 澄成
証し	敬老礼拝	猪飼 敦子	プロスパ	浅野 達
備考			聖餐式	
午後				執事会
週間				

お知らせ

- ◆ コロナウィルス感染予防の為、教会ではマスクを付け、定期的に手洗いをしてください。入口ではアルコール消毒してください。入口前で問診と検温をします。感染予防の為に指導があります。千葉市の感染者が50名を超えた場合、その翌週の礼拝以外を中止することになります。
- ◆ 感染拡大中なので、教会に来るときは公共交通機関を用いず、助け合って来てください。子どもたちの感染も多くなっています。子供同士が遊ぶ時も注意してください。
- ◆ 礼拝前や途中に飲み物を摂ることができます。しばらく食べ物と飲み物の提供を中止します。
- ◆ 9月12日は敬老礼拝です。75歳以上の方に、祝い品と祝福の祈りをします。
- ◆ 4階の中二つの部屋と3階和室の6畳用エアコン 53801円×3と3階リビング 14畳用エアコン 84800円、計 246203円を購入しました。工事は9/15(水)を予定しています。郵便局でリサイクル料金 3960円を払い、証明書をもって指定引取り業者に持ち込むか、来てもらうかします。皆さんが献金されている会堂会計から支出します。
- ◆ 9月の誕生者は、夏目真知子(15)、浅野恵子(17)です。おめでとうございます。
- ◆ 教会に来れない教会員は、上に掛かれた銀行口座に献金を振込み、内容を伝えてください。毎月の献金は、教会員の基本的責任です。
- ◆ 13時20分より、執事会です。



千葉福音キリスト教会 Crossroad Chapel

ホームページ <https://crossroadchapel.jp>

牧師 柏崎 久雄

Eメール; info@crossroadchapel.jp

牧師携帯電話 090-2537-9047

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台8-5-1 Tel. 043-255-1868. Fax.255-3897

[教会モットー]

神を信じ自らに希望を持ち人を愛する。Iコリント 13:13

二〇二一年標語熟成期 第4年度(設立37年)

「福音に生きる!」

「ただ一つ。キリストの福音に
ふさわしく生活しなさい。」

ピリピ書1章27節



林 偉也・彩夫妻に 2020.10.31 に与えられた長男義也くんの
献児式が 8/22 の礼拝で持たれました。

当教会の集会
日曜

礼拝 10:30~12:30
第3日曜 - 宣教礼拝(海外献金)
第4礼拝 - 聖餐礼拝(国内献金)

礼拝後 **スモールグループ**
(説教に基づいて語り合う。)

食事会 12:45~13:30
第3週-お楽しみランチ
第4週-防災食ランチ食事会
後①執事会 ②信徒会 ③交流会
④聖餐式 ⑤掃除

第3火曜 (14:00-14:20)
クリニックで聖書を読む会

水曜
聖書研修会 10:30~12:00
全曜

[本日の礼拝次第]

司会; 岡本 基 執事
受付; 安東・余
奏楽; 柏崎良子牧師夫人

讃美 聖歌 400(400)「君もそこにいたのか」 一同
教会理念 一同
代表祈禱 柏崎みせ
クリエーション 高橋澄成
証し 高野恵美
聖書交読 II 歴代誌 36 章 11~21 節
礼拝メッセージ 柏崎久雄牧師
祈りと応答
讃美 聖歌 584(620)「新しき地に」 一同
献金 井戸端・紫苑
主の祈り 一同
お知らせ

執事会
(礼拝は YouTube の crossroad chapel で公開され、ネット接続のテレビでも観られます。登録をしてください。)

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

II 歴代 36:11 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。

36:12 彼はその神、主の目の前に悪を行い、主のことばを告げた預言者エレミヤの前にへりくだらなかつた。

36:13 彼はまた、ネブカデネザルが、彼に、神にかけて誓わせたにもかかわらず、この王に反逆した。このように、彼はうなじのこわい者となり、心を閉ざして、イスラエルの神、主に立ち返らなかつた。

36:14 そのうえ、祭司長全員と民も、異邦の民の、忌みきらうべきすべてののならわしをまねて、不信に不信を重ね、主がエルサレムで聖別された主の宮を汚した。

36:15 彼らの父祖の神、主は、彼らのもとに、使者たちを遣わし、早くからしきりに使いを遣わされた。それは、ご自分の民と、ご自分の御住まいをあわれまれたからである。

36:16 ところが、彼らは神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにしたので、ついに、主の激しい憤りが、その民に対して積み重ねられ、もはや、いやされることがないまでになった。

36:17 そこで、主は、彼らのもとにカルデヤ人の王を攻め上らせた。彼は、剣で、彼らのうちの若い男たちを、その聖所の家の中で殺した。若い男も若い女も、年寄りも老衰の者も容赦しなかつた。主は、すべての者を彼の手に渡された。

36:18 彼は、神の宮のすべての大小の器具、主の宮の財宝と、王とそのつかさたちの財宝、これらすべてをバビロンへ持ち去った。

36:19 彼らは神の宮を焼き、エルサレムの城壁を取りこわした。その高殿を全部火で燃やし、その中の宝としていた器具を一つ残らず破壊した。

36:20 彼は、剣をのがれた残りの者たちをバビロンへ捕らえ移した。こうして、彼らは、ペルシヤ王国が支配権を握るまで、彼とその子たちの奴隷となった。

36:21 これは、エレミヤにより告げられた主のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。この荒れ果てた時代を通じて、この地は七十年が満ちるまで安息を得た。

2Ch 36:11 Zedekiah was twenty-one years old when he became king, and he reigned eleven years in Jerusalem. 36:12 He did evil in the sight of the Lord his God, and did not humble himself before Jeremiah the prophet, who spoke from the mouth of the Lord. 36:13 And he also rebelled against King Nebuchadnezzar, who had made him swear an oath by God; but he stiffened his neck and hardened his heart against turning to the Lord God of Israel. 36:14 Moreover all the leaders of the priests and the people transgressed more and more, according to all the abominations of the nations, and defiled the house of the Lord which He had consecrated in Jerusalem.

36:15 And the Lord God of their fathers sent warnings to them by His messengers, rising up early and sending them, because He had compassion on His people and on His dwelling place. 36:16 But they mocked the messengers of God, despised His words, and scoffed at His prophets, until the wrath of the Lord arose against His people, till there was no remedy.

36:17 Therefore He brought against them the king of the Chaldeans, who killed their young men with the sword in the house of their sanctuary, and had no compassion on young man or virgin, on the aged or the weak; He gave them all into his hand. 36:18 And all the articles from the house of God, great and small, the treasures of the house of the Lord, and the treasures of the king and of his leaders, all these he took to Babylon. 36:19 Then they burned the house of God, broke down the wall of Jerusalem, burned all its palaces with fire, and destroyed all its precious possessions. 36:20 And those who escaped from the sword he carried away to Babylon, where they became servants to him and his sons until the rule of the kingdom of Persia,

36:21 to fulfill the word of the Lord by the mouth of Jeremiah, until the land had enjoyed her Sabbaths. As long as she lay desolate she kept Sabbath, to fulfill seventy years.

「癒されることがないまでになった。」Ⅱ歴代誌36章11～21節

「この地が安息を取り戻すためであった。この荒れ果てた時代を通じて、この地は七十年が満ちるまで安息を得た。」(16)とは、レビ25・4にある7年に1年の土地を休ませる安息年とヨベルの年を合わせて50年に8年の安息年を守らなければならないこととなります。イスラエルの民が王を求めたことにより守れなかったことの埋め合わせの期間とされます。サウルが王となったのが紀元前千年代ですから、クロスの解放令(BC539年)までの480年程の期間の埋め合わせとしての強制安息となります。

こういう主の掟を破った場合には、悔い改めたら回避されるということではなく、罰は罰として受け入れて、その上で正しい歩みをするということが必要になります。特に、国や社会の罪、墮落に対する神の裁きについては、個人的には、義人はその災害から免れることがあり、神の警告に従って逃れていれば助かるのですが、個人がいくら執り成しをしても社会への神の罰を無くすることを願うことは傲慢です。

最近の自然災害やコロナ災害も神からの警告であり、それを無くすることを願うよりも、その意味合いを悟り、正しい対応をした上で、注意深く生きることが必要です。預言者エレミヤが、国への神の裁きを訴え、悔い改め甘んじて捕囚に行きなさいと伝えても、多くの人が神の国イスラエルが罰を受けるはずがない、神は救ってくださいと信じて、悔い改めに相応しい歩みをしていなかったのです。まるで、戦時中の日本のようです。国民は、日本が勝利することを願って、国に忠誠を尽くしたのですが、神の前には歩んでおらず、平気で人を裁いていたのです。

SDGs(持続可能な開発目標)が急に取り上げられるようになりました。貧困・飢餓・健康と福祉・教育・差別撤廃などから、経済活動への要請、自然保護、気候変動なども含めて、非常に広範囲な17の目標ですが、一般的な日本人や企業がこれを率先して意識しているかは疑問です。そして、自然環境については、既に遅い感があります。つまり、神の前に人間中心、利益中心の活動をして、「もはや、いやされることのないまでになった。」(16)のです。

「彼らは神の使者たちを笑いものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにした」(19)とあります。エレミヤ書には38の祭司という単語、85の預言者という単語がありますが、エレミヤ以外は殆ど偽預言者です。つまり、民衆が真実に神の言葉を伝える預言者を「笑い

ものにし、そのみことばを侮り、その預言者たちをばかにした」ので真実な預言者はエレミヤくらいになってしまったのです。「平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、ほんとうに主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」(エレミヤ28・2)とあり、「もし、正しい人がその正しい行いをやめて、不正を行うなら、わたしは彼の前につまずきを置く。彼は死ななければならぬ。それはあなたが彼に警告を与えなかったもので、彼は自分の罪のために死に、彼が行った正しい行いも覚えられないのである。わたしは、彼の血の責任をあなたに問う。」(エレミヤ3・26)とあります。裁きや試験、そして災害は、私たちが神の国に選ばれて行く為の関門のようなものです。愚か者は、そのような災害を避けて通ろうとしますが、神は「彼の前につまずきを置く」のです。その躓きに躓き、悔い改めないのならば、滅びの門に進むのです。

このゼデキヤも、先週と同じように、「うなじを固くし、心を閉ざして、主に立ち返らなかつた。」(26)のです。頑迷な人は、周囲の人から嫌がられ、阻害され、そして孤独になっていき、更に神の国への道から外れてしまいます。

悪人は、裁きの席でも、自分の非を認めません。二人を死なせた池袋の自動車事故の被告は有罪となりましたが控訴するのでしょうか。非を認めない加害者を皆が非難しますが、そういう人は多くおり、実は、それを非難する人もまた、神の前では厚顔無恥なのです。

バビロニアの兵は「剣で、彼らのうちの若い男たちを、その聖所の中で殺した。若い男も若い女も、年寄りも老衰の者も容赦しなかつた。主は、すべての者を彼の手に渡された。」(21)。神の裁きの前に立ちおおせる者はいないので、聖所の中で殺されたのです。神の宮にいたら、まさか殺されることはないと考えたのでしょうか、無残に殺戮されました。多くの信仰者の義の水準が低いのです。

戦いや選挙で片方に付いたら勝利者、そんな甘い考えで信仰を考えてはなりません。バビロニアがペルシャに一夜にして打ち破られた時、バビロニアの高官であったダニエルは、その前夜に王を諫めていました。その王がペルシャによって殺され、国が滅びた後、ダニエルはペルシャでも高官に任じられたのです。義人の生き方とはそのようなものです。